

平成 28 年度 研究計画書

Research Plan FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語・日本文化専攻 准教授
氏名 Name	岩井 茂樹
専門分野 Academic Field	日本文化

平成 28 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2016 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	視線の日本文化史：絵巻物から人形まで				
研究計画 (400 字～500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)					
<p>昨年度、日本画における視線研究を行った結果、明治時代以前の日本画には視線を画面の外に向けるような絵が極端に少ないことが明らかになった。西洋では 15 世紀に、中国では 16 世紀に絵の中の人物（神仏以外の一般の人々）が画面の外に視線を向けるようになるのに対し、日本では早くても 19 世紀までそうした現象が見られない。このことから判断すると、日本における視線忌避観念が他国や他文化よりも遅くまで残っていたことがわかる。そこで、本年度はもう少し分析対象を広げ、日本における視線観念をより長期的なスパンで、また日本画にジャンルを限定せず、分析していこうと考えている。その一つが、絵巻物の中の視線であり、もう一つが人形の視線である。前者は視線の曖昧化が、絵巻物特有の表現効果を生んでいるものと思われる。また後者は、たとえばリカちゃん人形とバービー人形を比べてみると歴然としているが、人形には今でも日本人が抱いて来た視線忌避観念の名残があることがわかってきた。このような作業を続けることによって、日本における視線意識の通史的解釈が可能になると期待される。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	4101	3001-3003	3001-3003	1201-1207	1201-1207
キーワード Keywords*2	視線	日本絵画	彫刻	眼	顔